



第33回書学書道史学会大会を終えて

鈴木 宏美

令和5年10月28日(土)・29日(日)、春日井市道風記念館及び文化フォーラム春日井・視聴覚ホールを会場として第33回書学書道史学会大会が開催されました。両日ともに天候に恵まれ、明るい青空が本大会の印象として残っています。

昨年に引き続き、今回の大会も対面にオンライン参加を加えて実施され、オンラインを含め90名の先生方にご参加いただきました。

数年前から大会会場の候補に挙げていただいていたなか、こちら

会報

●書学書道史学会

第46号

令和6年(2024)1月15日発行
 編集・発行
書学書道史学会
 広報局
 〒100-0003
 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
 パレスサイドビル7F
 (株)毎日学術フォーラム内
 TEL (03)6267-4550
 FAX (03)6267-4555
 MAIL maf-syogaku@mynavi.jp

からも希望し、今回開催が叶ったものです。本年度の開催地としてお話をいただいたのは昨年の春。春日井市制80周年記念として古谷稔先生のコレクションを紹介する特別展を準備しているときでした。なんとというタイミング。古谷先生は記念講演のご挨拶でも「ひっそりと開催するつもりだった」とおっしゃいましたが、「学会？」と驚かれながらも特別展会期を大会と合わせるなど、いろいろご配慮をいただきました。大会の記念講演も古谷先生の特別展をテーマとするものに決定し、特別展「人と書く日本の書の息吹」(会期：令和5年9月23日～10月29日)は、常に大会を意識しつつ企画開催した展覧会といえます。

「書は人のこころを映す。昔から今に書き継がれてきた書を見わたすと、日本の歴史、文化、人がみえてくる。」を展覧会メッセージとし、平安時代から現代までの日本の書の流れを感じられる貴重な展覧会となりました。展覧会会場である道風記念館は、研究発表のおこなわれた文化フォーラム春日井とは車で15分ほど離れており、ご不便をおかけいたしました。大会両日にわたって大勢の先生方にご観覧いただくことができました。

また本大会では、春日井で公募した一般応募者にも研究発表及び記念講演の聴講をお許しいただきました。応募者は、地元の書家や書字に熱心で道風記念館によくご来館いただき書の愛好家です。またとない機会であるためたいへん喜ばれ、熱心にメモをとりながら聴講する姿がありました。

春日井市は小野道風の誕生伝説があることから書が盛んな土地柄となり、「書のまち春日井」として書の文化振興に努めています。道風の誕生伝説地に位置する道風記念館は昭和56年に建ち、道風を始め様々な書を紹介する書の美術館として活動しています。今回、春日井で書学書道史学会の大会が開催されたことは、書のまちとして有意義であったと感じています。心よりの感謝を申し上げます。

(春日井市道風記念館 学芸員)

講演会報告

広報局

古谷稔先生 「日本の書流―法性寺流を中心に―」 記念講演会報告

第33回書道史学会大会では、本学会の名誉会員である古谷稔先生にご講演いただきました。古谷稔先生は、東京国立博物館名誉館員、春日井市道風記念館顧問を務められ、日本書道史を中心に著書を多数出版、日本書道史研究において多大なご功績を上げられてきました。

講演は、古谷先生のコレクションを中心とする豊富な資料を紹介しながら、法性寺流を書道史上にどのように位置付けていくかというテーマで展開されました。要旨は以下の通りです。

◆書流系譜から見た日本の書流

書流という概念は日本独特のもので、中国書法にはありません。この言葉は、「弘法大師書流系図」で最初に使われたようです。法性寺流の祖である藤原忠通の系譜を「弘法大師書流系図」で遡っていくと、藤原佐理から源兼行、さらに藤原教長という系列から忠通へと流れていくことが分かります。その後の書流について、「古筆流儀分」の系図を見ると、大師流は空海、その後の上代流は貫之・道風、そして法性寺流は忠通。それに続いて後京極流の良経。のちに定家流の京極黄門というふうになっています。法性寺流は突如として誕生したのではなく、大師流から上代流を通過して生まれたと考えることができます。その後は良経の後京極流へと連なり、さらに定家流が生まれる。そういった見方ができます。

◆尊円親王『入木抄』における書流の見方

『入木抄』には、「本朝一昧なれども時代に付て筆跡分明事」とあります。この一節を岩波本『日本思想大系』の注では、「我が国の書道史」としています。日本の書の流れを尊円親王は、このように概観していて、これが尊円親王の書道史観ということになります。

いわゆる流派を指して、「書流」といいますが、書の流れ、つまり書道史についても「書流」と言えます。これは、「筆道流儀分」で、大師流などの三筆を通過して三蹟、という

ような書の流れを指します。尊円親王がその考え方を示したのが、この「本朝一昧なれども時代に付て筆跡分明事」です。

◆法性寺流の書風確立と影響基盤

藤原行成の4代目定実・5代目定信あたりが活躍した時期には、日本の料紙工芸がピークを迎えました。時代とともに優美な王朝様式が色彩豊かなものに変わってきています。3代目伊房筆「藍紙本万葉集」は力強く、中国の宋代の趣を思わせる勢いがあります。この傾向が12世紀に入るとだんだんと強さのある藤原忠通の法性寺流のような雰囲気に変わってきます。伝忠通筆「和漢朗詠集抄」は、まさにその好例といえます。宋代さらに唐代の中国書法の影響が窺えます。

◆料紙装飾と書道史上の位置付け

時代を判定する一つの目安として、時代の特徴を示す料紙装飾があります。例えば金銀切箔、霞引きなどは、行成の時代にはほとんど見られません。こうした様式がいつ定着したかということが問題になります。金銀切箔は12世紀後半の「源氏物語絵巻」はじめ、伝忠通筆の「和漢朗詠集抄」などに見え、さらに13世紀に入り、「紫式部日記絵巻」というように、様式が定型化していきます。

もちろん筆者についても重要です。参考にするべき研究資料などがありますが、何よりも原本をよく観察することです。現存する遺品をもとに真筆を位置づけなければなりません。さらにそれらの書風についてです。『入木抄』では、それぞれの時代の中心となる人物をほめかしています。書風は時代的にも、人物的においても位置づけることができます。和歌と手紙のように、書写態度によって同じ人が書くものでも書風が変わります。歌集などの長いものを書く場合には、同じものなかで変化をつけることもあります。そういったことも考慮して書きぶりを見なければならぬのではないかと思います。

(文責／広報局 村田明)



令和4年度会計決算報告書
(2022年4月1日～2023年3月31日)

	項目	決算額
収入の部	個人会員会費	2,058,000
	団体賛助会費	378,800
	大会参加費	106,000
	その他の収入	15,291
	本年度収入 合計	2,558,091
	前年度繰越金	9,444,178
	前年度負債	△ 2,581,779
	収入合計	9,420,490
	支出の部	編集局経費
「学会展望」準備費		99,000
渉外局経費		66,000
企画局経費		44,000
大会運営費(企画局)		298,291
例会運営費(企画局)		0
講師謝金費(企画局)		203,857
振興局経費		300,000
会報編集費(広報局)		56,939
ホームページ委託費(広報局)		220,000
会議費		5,500
選挙管理委員会費		0
名簿作成発行費		0
通信費		200,506
事務消耗品備品費		94,605
事務委託費		799,030
会計士人件費		55,000
東洋学・アジア研究連絡協議会		2,000
予備費		0
本年度経費 合計		3,217,638
次年度繰越金		8,211,298
本年度未払金		△ 2,008,446
支出合計		9,420,490

令和5年度予算案
(2023年4月1日～2024年3月31日)

	項目	予算額	
収入の部	個人会員会費	2,500,000	
	団体賛助会費	500,000	
	大会参加費	100,000	
	その他の収入	0	
	本年度収入 合計	3,100,000	
	前年度繰越金	6,202,852	
	収入合計	9,302,852	
	支出の部	編集局経費	750,000
		「学会展望」準備費	100,000
渉外局経費		100,000	
企画局経費		50,000	
大会運営費(企画局)		300,000	
例会運営費(企画局)		100,000	
講師謝金費(企画局)		100,000	
振興局経費		0	
会報編集費(広報局)		100,000	
ホームページ委託費(広報局)		220,000	
会議費		30,000	
選挙管理委員会費		100,000	
名簿作成発行費		150,000	
通信費		150,000	
事務消耗品		100,000	
事務委託費		800,000	
会計士人件費		55,000	
東洋学・アジア研究連絡協議会		2,000	
日本書道文化協会		30,000	
予備費		6,065,852	
本年度経費 合計		3,237,000	
次年度繰越金		0	
支出合計		9,302,852	

令和5年度総会報告

事務局

本年度の総会は、令和5年10月28日(土)、文化フォーラム春日井視聴覚ホールにて行われました。総会に先立ち、菅野智明企画局長の進行のもと大会の開会式が行われ、続いて河内利治理事長より挨拶がありました。

総会は、事務局長の司会で進行了しました。最初に、河内理事長より名誉会員・興膳宏氏のご逝去について報告がなされ、黙祷を捧げました。審議においては、橋本貴朗会員を議長として進められ、いずれの議案も承認されました。

総会後には、会場の春日井市長・石黒直樹様よりご挨拶をいただきました。

◆審議事項

- (1) 令和4年度会計決算報告、事業・活動報告、会計監査報告について (増田知之会計局長、尾川明穂事務局長、丸山猶計監事)
- (2) 令和5年度予算案、事業・活動計画案について (増田知之会計局長、尾川明穂事務局長)

◆報告事項

(1) 各局報告

- ① 企画局 (菅野智明企画局長)
- ② 渉外局 (富田 淳渉外局長)
- ③ 振興局 (成田健太郎振興局長)
- ④ 編集局 (菅のり子編集局長)
- ⑤ 広報局 (高橋利郎広報局長)
- ⑥ 会計局 (増田知之会計局長)
- ⑦ 事務局 (尾川明穂事務局長)

*総会で配付した書類のうち、「資料1」「令和4年度収支報告書」、「資料4」「令和5年度予算案(いずれも備考欄を除く)」を本ページに掲載しました。

新入会員紹介

事務局

◆一般会員

- 柏木知子 (兵庫県立美術館)
- 西村大輔 (奈良国立大学機構奈良教育大学)

◆学生会員

陳錦清 (京都大学大学院)

※令和5年4月～12月に申請された方

2024年度 書学書道史学会例会 研究発表者募集要項

企画局

各局報告

次年度の例会は、左記のとおり開催いたします。会員各位には、日頃の研究成果を意欲的かつ積極的に発表いただきたく、左記の要領で募集します。なお、次年度の例会も、外部の講師による講演を併催する予定です。

記

- ①開催日/方法：2024年7月7日(日) 午後/オンラインによるライブ配信とします。それに応じたIT機器を扱っていただきますので、ご承知おきください。
- ②発表者数/時間：3名程度/各30〜45分(発表20〜30分、質疑応答10〜15分)
昨年度と同様に、必要に応じて大会での研究発表よりも発表時間や質疑応答の時間を長めに確保し、議論を深めることも視野に入れています。発表時間は右記の範囲で希望者各位と個別に相談させていただきます。
- ③申込方法：Eメールにて左記事務局宛にお申し込みください。件名には必ず「書学書道史学会例会発表申込(※発表希望者氏名を付す)」と明記してください。また本文の冒頭に「所属・氏名・連絡先」を記したのちに、発表内容の題目および発表内容の要旨をレジユメ(800字程度)にまとめてご提出ください。
- ④レジユメ：原則として、ワープロ(テキスト形式、Wordファイル形式のいずれか)で作成し、申込時のEメールに、ファイルを添付して送信してください。
- ⑤申込締切：2月29日(木) 必着
- ⑥発表者の決定と連絡：3月中旬に開催予定の理事会にて協議・決定し、採否の結果は個別に連絡いたします。
- ⑦レジユメの公開：5月発行予定の『会報』47号にて公開します。この内容はホームページにも掲出いたします。

※注記

- ・例会の発表者については、学会誌『書学書道史研究』第34号への投稿申込があったものとして扱われますので、改めて学会誌への投稿申込を行う必要はありません。
- ・学会誌への論文投稿締切は、令和7年3月31日となっております。投稿後、原稿掲載の採否は論文査読委員会によって決定されます。

お問い合わせ先

書学書道史学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル7F(株) 毎日学術フォーラム内

TEL: 03-6267-4550 FAX: 03-6267-4555

メールアドレス: naf-syogaku@navi.jp

*なお、事務局(株)毎日学術フォーラム内)への電話でのお問い合わせにつきましては、一部テレワーク実施に伴い、後日のご連絡となる場合がございます。

(迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。)

◆企画局
次年度の大会・例会について
次年度の例会は、上掲の「研究発表者募集要項」のとおり開催します。また、大会は10月26日(土)・27日(日)に東京都の大東文化大学で開催します。詳細は次号の会報でお知らせいたします。(局長 菅野智明)

◆渉外局
学会誌32号 J-STAGE 登載
3月31日に学会誌『書学書道史研究』32号(2022年10月31日刊行)を独立行政法人科学技術振興機構(JST)運営のJ-STAGE(ジエイ・ステージ)に登載しました。論文8件のほか、学界展望や書評を掲載しています。各種イベント・学術会議・展覧会・シンポジウム

登録無形文化財「書道」特別揮毫会、第67回国際東方学者会議、第4回中国文化研究国際論壇、大阪大学総合学術博物館「石濱純太郎展」、石川県立美術館「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展」、北京・故宫博物院「宋拓魅力——碑帖珍本特展」、北宋書画精華「国際学術シンポジウムなどの情報をご案内しました。(局長 富田 淳)

◆振興局
研究促進助成金制度について
2023年度の募集においては、残念ながら研究計画書の申請がありませんでした。来年度は多数の申請を期待しております。2021年度採択者(土屋明美会員)の終了報告書に相当する「経費執行報告書(含む領収書)」を受領し、適正に経費を執行されたことを確認しました。2022年度採択者(仲村康太郎会員)の「中間報告書」を受領しました。研究計画を適正に遂行されています。

◆学生会員研究発表旅費補助制度の新設について
2023年10月28日の理事会において、「学生会員研究発表旅費補助制度」の新設が承認されました。本学会の大会等に直面参加して研究発表を行う学生会員に対して、必要な旅費を補助する制度です。詳細は本学会ホームページに順次公開しますので参照ください。(局長 成田健太郎)

◆編集局

『書学書道史研究』第33号の刊行について

2023年10月31日付で『書学書道史研究』第33号を刊行いたしました。論文5編、特集「西林昭一先生のご功勞」、盛岡大会記念講演録「祖父・清六から聞いた兄、宮沢賢治」、「展覧論文」、「書評」、「新刊紹介」を収録しております。ご執筆ならびに論文査読をいただきました各位に厚くお礼申し上げます。

『書学書道史研究』第34号編集に向けて

投稿申し込みは、2023年12月31日で締め切り(要概要送付)しました。

・「書評」もしくは「新刊紹介」：本誌で取り上げるべき書籍の推薦を随時受け付けております。複数の著作候補が届いた場合には、編集局で対象本を検討して決定いたします。

「投稿規定」、「執筆要領」改定のお知らせ

第33回大会総会において、『書学書道史研究』「投稿規定・執筆要領」の一部改定が承認されました。「論文」「研究ノート」をはじめとする原稿の性格、投稿前の原稿チェックリストなど、従来と異なる点がござります。改定された事項は、本誌第34号への投稿原稿より適用となります。詳細については、ホームページで公開(総会配布資料および「投稿規定・執筆要領」)しておりますのでご確認ください。

投稿にあたっては、最新版「投稿規定・執筆要領」および「別紙様式」に基づいて、様式に沿った原稿作成をお願いいたします。(局長 萱のり子)

◆事務局

第18期役員選出選挙について

本学会の現第17期役員会(理事・監事)は、令和6年3月31日をもって任期(2年)満了となることから、新たに第18期役員選出のために選挙を実施します。詳細については、来月発送する「役員改選選挙の告示と投票について」にてご案内いたします。会員各位におかれましては、本学会創設以来、守り続けている民主的運営の美風を堅持するために、すべての会員による投票をお願いします。

なお、選挙管理委員会については、第17期役員会発足時に理事会で承認された、以下の委員会メンバーによって構成

成、および実施されることが決定しています。

〔選挙管理委員会〕

委員長 小川博章

委員 高橋佑太 六人部克典 柳田さやか

(以上、理事・監事枠より4名)

委員長 高橋佑太 六人部克典 柳田さやか

(以上、理事・監事枠より4名)

委員 高橋佑太 六人部克典 柳田さやか

(以上、理事・監事枠より4名)

令和5年度事業・活動計画
10月30日 第32回大会2日目(於盛岡大学)
10月31日 第32号『書学書道史研究』発行及び発送
12月25日 第4回理事会(オンライン会議)
12月31日 第33号『書学書道史研究』投稿申込締切
1月15日 第44号『会報』発行及び発送
2月28日 2023年度例会発表申込締切
3月31日 第33号『書学書道史研究』投稿原稿締切

令和5年度事業・活動計画
4月9日 第1回常任理事会(オンライン会議)
4月23日 第1回理事会(オンライン会議)
5月15日 第45号『会報』発行及び発送
6月1日 「研究促進助成金制度」申請受付(7日)
6月30日 第33回大会発表申込締切
7月6日 令和4年度決算会計監査
7月9日 第2回常任理事会(オンライン会議)
8月20日 2023年度例会(オンラインライブ配信)
9月15日 第2回理事会(メール会議)
10月15日 『大会最終案内』『大会レジュメ集』発行及び発送
10月28日 第3回理事会(定例)(於文化フォーラム春日井)

令和5年度総会(於文化フォーラム春日井)
10月29日 第33回大会1日目(於文化フォーラム春日井)
10月31日 第33号『書学書道史研究』発行及び発送
12月22日 第4回理事会(メール会議)
12月31日 第34号『書学書道史研究』投稿申込締切
1月15日 第46号『会報』発行及び発送
(以上は執行済み)

令和5年度総会(於盛岡大学)
3月31日 第34号『書学書道史研究』投稿原稿締切
(局長 尾川明穂)

令和5年度総会(於盛岡大学)
3月31日 第34号『書学書道史研究』投稿原稿締切
(局長 尾川明穂)

令和5年度総会(於盛岡大学)
3月31日 第34号『書学書道史研究』投稿原稿締切
(局長 尾川明穂)

追悼 興膳宏先生



2020年3月撮影

本学会に発足時より参加され、二〇〇〇年より二〇〇六年まで三期六年にわたって理事長を務められた興膳宏先生におかれては、二〇二三年十月十六日に急逝されました。

興膳先生は、一九三六年福岡市

のお生まれで、福岡県立修猷館高等学校から一九五七年に京都大学文学部に入學され、中国語学中国文学を専攻、一九六一年に大学院に進學されました。一九六六年より愛知教育大学助手、ついで講師、助教、一九七二年より名古屋大学助教、一九七四年より京都大学助教、ついで教授として奉職され、二〇〇〇年に退官されました。その後二〇〇一年より二〇〇五年まで、京都国立博物館館長を務められました。

ご研究は初め嵇康、阮籍、左思、謝朓ら六朝の文学者を対象とされ、さらに『文心雕龍』『詩品』などの六朝の文学理論、さらに空海『文鏡秘府論』のご研究に進まれ、一九八九年に『中国の文学理論』によって文学博士の学位を得られました。二〇一三年に日本学士院賞を受賞、二〇一六年に日本学士院会員に選出、さらに二〇一九年に文化功労者の榮譽を受けられたことは、報道等によって会員各位ご存じのとおりです。近年は、ご自身の師に当たる吉川幸次郎先生の未完の大著『杜

甫詩注』完成のお仕事に邁進され、その第一期は二〇一六年に完結、その後は同第二期のお仕事に精力的に取り組んでおられました。

書学書道史に関わるご研究としては、ご専門の六朝文学・文学理論の視点から王羲之について、また六朝の書画論についてのご研究を発表され、また本学会の『書学書道史研究』第16号（二〇〇六年）に「杜甫の書論—ことに同時代批評の視点から—」を、『書学書道史論叢／二〇一一 創立20周年記念論文集』（萱原書房）に「鄭虔と杜甫—唐代書史逸聞—」をそれぞれ寄稿されています。また、『書学書道史研究』第5号（一九九五年）の「書学書道史学会五周年記念・誌上座談会 書学書道史研究の現状と展望」では、今なお傾聴に値するご所見を述べておられます。

興膳先生のご学問の特徴は、六朝文学・文学理論という専門分野を究められた一方で、東洋の古典文化に対して広い視野と関心を持たれていたところにあります。落語を好まれ、京都国立博物館館長時代に「京都・らくご博物館」という市民向けのイベントを始められたことはその一例です。また、二〇一二年に『杜甫詩注』完成のために始められた読書会を命名するにあたって、かつて吉川幸次郎先生が主宰されていた杜甫詩の読書会「読社会」にちなみ、浦起龍の著『読杜心解』をもじった案「読杜新会」を採用されたことは、興膳先生のエスプリの真骨頂でした。

興膳先生が本学会に対して期待された「書に関するあらゆる関係あるものを吸収し総合する学問」という目標を、後学として継承することを誓いつつ、先生のご冥福をお祈りします。

（成田健太郎）

令和5年度本学会関係者科学研究費採択一覧

広 報 局

- ・基盤研究 (S) 継続 (令和3) シルクロードの国際交易都市スィヤブの成立と変遷―農耕都市空間と遊牧民都市の共存― 福井淳哉 (帝京大学) ※代表: 山内和也 (帝京大学) 3,150千円
- ・基盤研究 (A) 継続 (令和元) 唐絵の中の朝鮮絵画―半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的輔― 板倉聖哲 (東京大学) ※代表: 井手誠之輔 (九州大学) 6,300千円
- ・基盤研究 (A) 継続 (令和2) 「奈良朝制定一切経」の総合的研究―漢文仏教テキストの資料的基盤の再構築に向けて― 赤尾栄慶 (国際仏教学大学院大学) ※代表: 落合俊典 (国際仏教学大学院大学) 1,410千円
- ・基盤研究 (A) 継続 (令和2) コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究 中村寛 (東京大学) ※代表: 山家浩樹 (東京大学) 6,600千円
- ・基盤研究 (A) 継続 (令和3) 漢文大蔵経の文献学的研究基盤の構築―『大正新編大蔵経』底本・校本DBの活用と拡充― 中村寛 (東京大学) ※代表: 倉本佳光 (公益財団法人東洋文庫) 9,200千円
- ・基盤研究 (A) 継続 (令和3) 断片的史料情報集の集積と歴史知識情報の相互参照体制の確立による新たな史料構築研究 中村寛 (東京大学) ※代表: 西田友広 (東京大学) 6,600千円
- ・基盤研究 (A) 継続 (令和4) 荘園絵図調査・解析方法に関する総合的研究と汎用的な歴史地理情報への応用研究 中村寛 (東京大学) ※代表: 井上聡 (東京大学) 8,710千円
- ・基盤研究 (A) 新規 大型絵図類のデータ構造化と関連史料の連携による南西諸島「海上の道」の復元的研究 中村寛 (東京大学) ※代表: 黒嶋敏 (東京大学) 13,390千円
- ・基盤研究 (B) 継続 (令和元) 「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解明と研究資源化― 尾川明穂 (筑波大学) ※代表: 水野裕史 (筑波大学) 3,900千円
- ・基盤研究 (B) 継続 (令和元) 敦煌書儀・六朝尺牘文獻の古代日本への受容実態の展開 小林比出代 (信州大学) ※代表: 西一夫 (信州大学) 2,210千円
- ・基盤研究 (B) 継続 (令和2) 美術鑑賞学習指導体系の構築に関する実践的研究 菅のり子 (奈良教育大学) ※代表: 松岡宏明 (大阪総合保育大学) 3,640千円
- ・基盤研究 (B) 継続 (令和2) 中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究 代表: 富田淳 (独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館) 分担: 六人部克典 (独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館) 鍋島福子 (独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館) 3,250千円
- ・立文化財機構東京国立博物館 3,250千円
- ・基盤研究 (B) 継続 (令和3) 形象の記述・記録についての比較美術史学的研究 板倉聖哲 (東京大学) ※代表: 秋山穂 (東京大学) 5,200千円
- ・基盤研究 (B) 継続 (令和3) 「水墨画」と「彩色画」―1945年以降の東アジアにおける絵画表現に関する調査研究― 板倉聖哲 (東京大学) ※代表: 荒井経 (東京芸術大学) 3,710千円
- ・基盤研究 (B) 継続 (令和3) デジタル文学地図の構築と日本古典文学研究―古典教育への展開― 中村寛 (東京大学) ※代表: 飯倉洋一 (大阪大学) 2,800千円
- ・基盤研究 (B) 継続 (令和4) 日本近世史料学の再構築―基幹史料集の多角的利用環境形成と社会連携を通じて― 中村寛 (東京大学) ※代表: 杉本史子 (山田史子) (東京大学) 5,800千円
- ・基盤研究 (B) 継続 (令和4) 戦前・戦中の報道写真を用いたストーリーテリング・デジタルアーカイブのデザイン 中村寛 (東京大学) ※代表: 渡邊英徳 (東京大学) 3,080千円
- ・基盤研究 (B) 継続 (令和4) 近代代日本の「万国人物図」群が示す人種観と世界観に関する総合的人文学的研究 成田健太郎 (京都大学) ※代表: 杉浦和子 (京都市) 3,260千円
- ・基盤研究 (B) 新規 近世日本の学知と家伝史料: 荻生家旧蔵史料と水戸徳川家旧蔵史料を中心に金子馨 (公益財団法人出光美術館) ※代表: 高山大毅 (東京大学) 4,880千円
- ・基盤研究 (B) 新規 文化史資料としての抄物の研究 近藤浩之 (北海道大学) ※代表: 葛清行 (北海道大学) 1,020千円
- ・基盤研究 (B) 新規 人文学の研究方法論に基づく日本の歴史的テキストのためのデータ構造化手法の開発 中村寛 (東京大学) ※代表: 永崎研宣 (一般財団法人人文情報学研究所) 6,110千円
- ・基盤研究 (B) 新規 「探究的な学習」の指導ができる小中学校教員の養成方法の開発と効果検証 樋口咲子 (千葉大学) ※代表: 小山義徳 (千葉大学) 3,250千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和元) 関西中国書画碑帖コレクション形成の経緯―未公開資料の分析を中心として― 下田章平 (相模女子大学) 910千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和2) 近代朝鮮における「書」の創出と展開―官擧出身書家の動向を中心に― 金貴粉 (津田塾大学) 910千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和3) 在日コリアンハルセン病回復者・超高齢者コホートによる被差別経歴と健康影響の解明 金貴粉 (津田塾大学) ※代表: 文鐘馨 (畿畿大学) 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和3) 東アジアにおける書教育に関わる教員養成学構築のための比較研究 草津佑介 (都留文科大学) ※代表: 加藤泰弘 (東京学芸大学) 890千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和3) 比較書学教育研究に基づく左利き者に有効な書写学習モデルの開発 小林比出代 (信州大学) 910千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和3) 「文字文化」としての手書き文字の総合的理解および学習方略の研究 清水文博 (山梨大学) 1,560千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和3) 論理的記述力を涵養するための教育方法確立に関する基礎研究 鈴木慶子 (長崎大学) ※代表: 林篤裕 (名古屋工業大学) 780千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和3) DeはDeboardよりも強し―なか 鈴木慶子 (長崎大学) ※代表: 千々岩弘一 (鹿児島国際大学) 1,170千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和3) 古代エジプト神官文字写本の地域差を含めた言語記述とIIF検索プラットフォームの構築 中村寛 (東京大学) ※代表: 永井正勝 (東京大学) 1,170千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和3) 中国と日本の書画における表装文化の総合的研究 代表: 鍋島福子 (独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館) 分担: 富田淳 (独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館) 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和4) 日本・アジア美術史のオーラルヒストリー・アーカイブの構築と公開 板倉聖哲 (東京大学) ※代表: 塚本廣充 (東京大学) 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和4) 教科通底のな力を養う書写教育の実践的研究―教員の「学び観」形成を軸にして― 菅のり子 (奈良教育大学) 1,860千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和4) 小学校入学時の書字における課題の解決に向けたプログラム開発 齋木久美 (茨城大学) 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和4) 清代の書論における図譜の展開の基礎的研究 高橋佑太 (筑波大学) 910千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和4) 水運による新書体形成過程の解明―墓誌と造像題記の差異を読む― 東賢司 (愛媛大学) 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和4) 小学校国語科書写における硬筆・毛筆動画教材および授業モデル解説動画の作成 樋口咲子 (千葉大学) 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 継続 (令和4) 江戸期における右字系筆順と左字系筆順の書き分けの合理性に関する研究 松本仁志 (広島大学) 890千円
- ・基盤研究 (C) 新規 上古中国語アスペクト研究―有標形式と無標形式が表現する文法的意味 大西克也 (東京大学) 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 新規 仮名資料の表記の実態と故実書との相関性の分析に基づく表記意識の通時的探究 家人博徳 (一橋大学) 清心女子大学 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 新規 黒川家旧蔵資料の調査研究―江戸から明治期の「知」の流通と古典学の学術体系的解明― 家人博徳 (一橋大学) 清心女子大学 ※代表: 江草弥由起 (一橋大学) 清心女子大学 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 新規 近代日本の成証・遊郭・ハンセン病施設での労働のインターセクショナル研究 金貴粉 (津田塾大学) ※代表: 徐阿貴 (福岡女子大学) 1,560千円
- ・基盤研究 (C) 新規 草仮名中子古筆および草書を用いた大学における大字仮名作品制作指導の研究 久保田陽子 (岩手大学) 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 新規 センシングシステムを活用した手書きメモ取り過程と話の理解に関する実証的検討 鈴木慶子 (長崎大学) 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 新規 「なぜ、理解できないのか―つまりまづきのプロセスに関する実証的研究― 鈴木慶子 (長崎大学) ※代表: 劉剛美 (長崎大学) 1,260千円
- ・基盤研究 (C) 新規 『三国志演義』簡本系版本の成立と分化の過程 中川諭 (立正大学) 780千円
- ・基盤研究 (C) 新規 近世における入道への受容と普及に関する書史的研究 宮本淳子 (東京学芸大学) 910千円
- ・若手研究 継続 (令和3) 持続性と利活用性を考慮したデジタルアーカイブシステム構築手法の開発 中村寛 (東京大学) 1,260千円
- ・若手研究 継続 (令和3) 日本書垣史の「和様」に関する文献的研究 柳田さやか (東京藝術大学) 780千円
- ・挑戦的研究 (萌芽) 継続 (令和3) 古典書跡に注目した手指書き運動の解析とアーカイブ化 尾川明穂 (筑波大学) 1,260千円
- ・特別研究員奨励費 継続 (令和4) 帝国日本における「植民地台湾・朝鮮書垣史」の成立とその展開―自主・協力・抵抗― 柯輝煌 (東京大学) 500千円

*本学会員の採択課題に限ったが、会員が研究分担者で、研究代表者が非会員である場合には、※を付し代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題に付記した。当該課題のもとに代表者と分担者との併記した。所属の後の数字は、令和5年度のみ補助金の配分額。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業期間を本年度まで延長した課題については、ここに挙げていない。

談話室

仮名について

王 娜婷

小学生の時、書道の先生とともに泉州市の書道展覧会に行き、曲線的で気の強い巨大な作品を見た。先生は「小野道風の書の臨書ですよ」と言った。「あれは何書ですか」と質問すると「狂草です」と答えた。私にとって初めての仮名書との出会いだっただ。

日本に来る前、大学の祁小春先生が「必ず仮名の書を習いましょう」と私に念を押した。来日後、仮名を実見して臨書すると、空に雲が流れるような優しいイメージが深く脳裡に刻まれた。仮名に対する印象が変わった。

泉州州で見た仮名作品を思い出した。自国の芸術が異文化の中で変容する。これをどう評価したらよいだろう。他国の芸術を自国の理解で学ぶのか、その国を理解に忠実であるべきか。じっくり考えてみたい。

筆に込められた想いに馳せる

黒松 愛華

令和元年に筆の都・広島県熊野町は、兵庫県三木市在住の書家、公森仁氏に

よって蒐集された、唐筆453作品の寄贈を受けました。これに際して、勤務先の筆の里工房では、2月23日(祝・金)〜4月16日(日)の間「三清書屋コレクション寄贈記念展」を開催します。本コレクションは、「民のなかにこそ、文化がある」という公森氏の考えで、明代から現代に至る民間の筆匠(筆職人や筆舖)名が刻された筆が系統的に蒐集されています。このほか、倪元璐や梁同書などの文人愛用筆、愛玩の対象となった装飾筆なども収められています。

書文化の発展を陰ながら大きく支えた

筆の歴史はもとより、筆に込められた人々の想いや願い、当時の文化に思いを馳せてもらいたいという思いで展覧会準備に励んでいます。少しでも多くの方にご来館いただければ幸いです。

「宋拓魅力―碑帖珍本特展」

富田 淳

10月20日付けで九州国立博物館長に就任することになり、異動の慌ただしさにまかして、北京・故宮博物院の文華殿で開催された「宋拓魅力―碑帖珍本特展」を見逃してしまいました。現地の友人からも、準備段階の時点でぜひ見に来るよう勧められていただけに、残念でなりません。

「北宋書画精華」国際学術シンポジウム

ムで、香港中文大学文物館の担当者から贈呈された図録を見て、渴を癒やしています。細部まで意匠を凝らしたその図録からは、関係者の熱い意気込みが伝わってきます。そういえば学会ホームページでもお伝えしたように、同展はパーチャルツアーまでアップしていました。展覧会一つとっても、彼等の熱量の差を痛感することの多い昨今です。

鑑賞の癖

仲村 康太郎

去る10月、人に誘われて京都文化博物館の特別展「もしも猫展」を参観しました。動物の擬人化をテーマに、猫に材を取る歌川国芳の作品をとりわけ多く揃えた、充実した展覧会でした。

参観した日は休日であったため来場者も多く、みなさんユーモラスな絵の数々を楽しまれているようでした。小生はというと、もちろん絵の鑑賞も楽しいのですが、字があるところについていろいろですが、字があるところが、絵と文とが交互に目が奪われがちで、絵と文とが交互に続く絵巻物や屏風では、専ら字ばかりに目が向いていました。絵は一瞥で済ませ、詞書の崩し字とにらめっこする姿は、明らかに展覧会の趣旨からずれており、傍から見て奇異に映ったかもしれません。

編集後記

◆会期当初に『北宋書画精華』を観覧しましたが、中国人や欧米人の多さに圧倒され、コロナ以前の『顔真卿展』が思い出されました。皇居三の丸尚蔵館へ屏風土代を見に行こうと思いましたが、事前予約は既に満杯。初動の遅さを反省しました。(高橋佑太)

◆二〇二四年NHK大河ドラマ「光る君へ」放映の影響か書店では紫式部や平安貴族に関する特集が見受けられます。勤務先の五島美術館では令和6年度春の優品展「王朝文化へのあこがれ」において「国宝 源氏物語絵巻」期間限定)や令和五年受贈の古筆切を公開予定です。(佐々木佑記)

◆この会報が刊行される頃には既に行った後にはなるが、4年ぶりに大学にて海外実地研修が行われ、台湾へと同行させてもらえるところとなった。学部時代にも参加したため私自身としては6年ぶりの海外研修となる。現地ではか学び得ないことを大いに吸収するとともに、初めての台湾、楽しんで参ります。(村田 萌)

◆第33回大会の報告は、文化フォーラム春日井の手配や春日井市道風記念館における特別観覧をはじめ、全般にわたってご尽力いただいた道風記念館学芸員の鈴木宏美様にご執筆いただきました。市制80年を迎えた書の町春日井で、充実した大会を開催することができました。(高橋利郎)